108

草野貝塚（くさの）

（鹿児島市下福元町草野賀呂）

位置と環境

遺跡は鹿児島市の南部光山団地の南端東側の標高約40mの小台地にある。東端は急崖をなし，直下に七ッ島サンライフプールがある。南側はかつては台地が続いていたが，削平されやはり急崖となっている。西側は隣接して住宅地となっている。

写真１　台付皿形土器（市来式）

調査の経緯

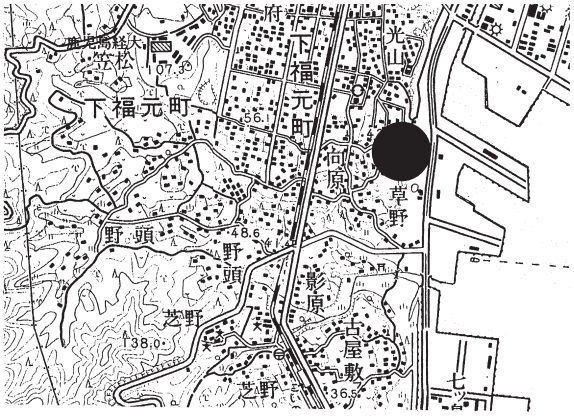
昭和23年頃地主によって発見され，昭和26年に河口貞徳と河野治雄が調査を行っている。昭和56年には鹿児島市教育委員会が開発に伴う第１次，翌57年には第２次の緊急発掘調査を実施している。

遺構と遺物

昭和26年の調査では，平坦な台地面から北側に階段状に開墾された畑の２段目から４段目に貝層を確認している。市来式・指宿式の土器をはじめ貝製品・骨角製品・軽石製品・石器等が発見された。市来式の台付鉢形土器や皿形土器等もあり，遺物の多様性がすでに注目されている。

昭和56年は，破壊によってわずかに残された台地面の東側と西側，それに北側斜面の貝層の一部を調査した。台地面からは市来式期を主として指宿式，草野式期の竪穴が46基発見されている。

昭和57年は，台地の北東部と西側の斜面を調査し，厚さ約1.7mの貝層を確認した。遺物は市来式･指宿式の他，松山式・草野式・瀬戸内の福田ＫＩＩ式・鐘ヶ崎式等の土器と，石器・骨角牙製品・貝製品等がある。多種多様でかつ大量に出土している。



第１図　草野貝塚の位置

特徴

昭和27年の河口貞徳の調査報告によって，草野貝塚の全容はほぼ明らかになった。特に重要な指摘は市来式と指宿式の層位の上下関係が判明し，また指宿式から市来式への形式的推移を明確にしたことである。市来式自体の新旧の二分も行い，以後の縄文後期土器研究の指標となったことは重要である。

資料の所在

出土遺物は，鹿児島市ふるさと考古歴史館に保管され，その一部は展示されている。

参考文献

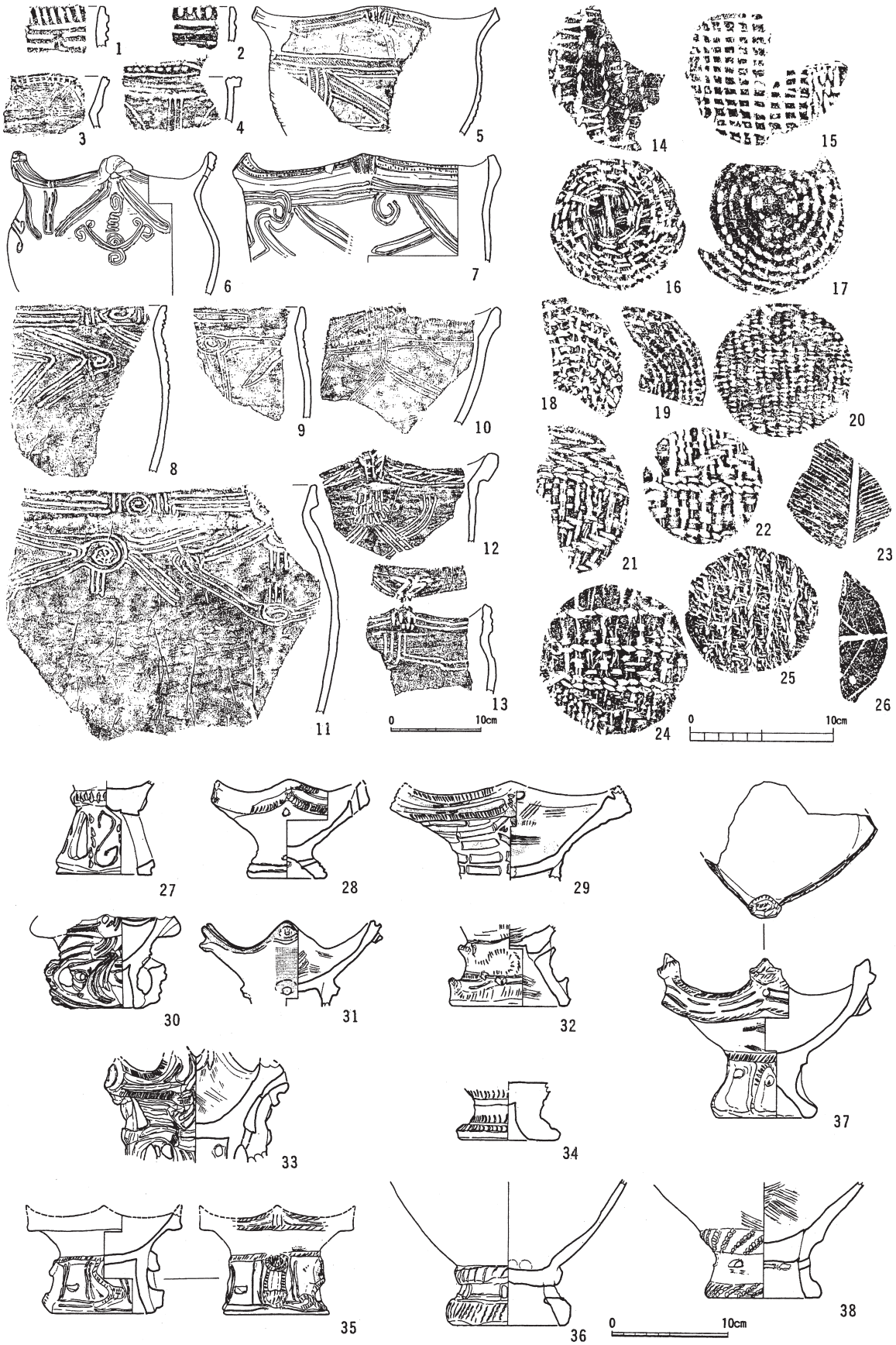
河口貞徳1952「草野貝塚発掘報告」『鹿児島県考古学会紀要』１号

鹿児島市教育委員会1983「草野貝塚・昭和57年発掘調査概報」『鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書』４

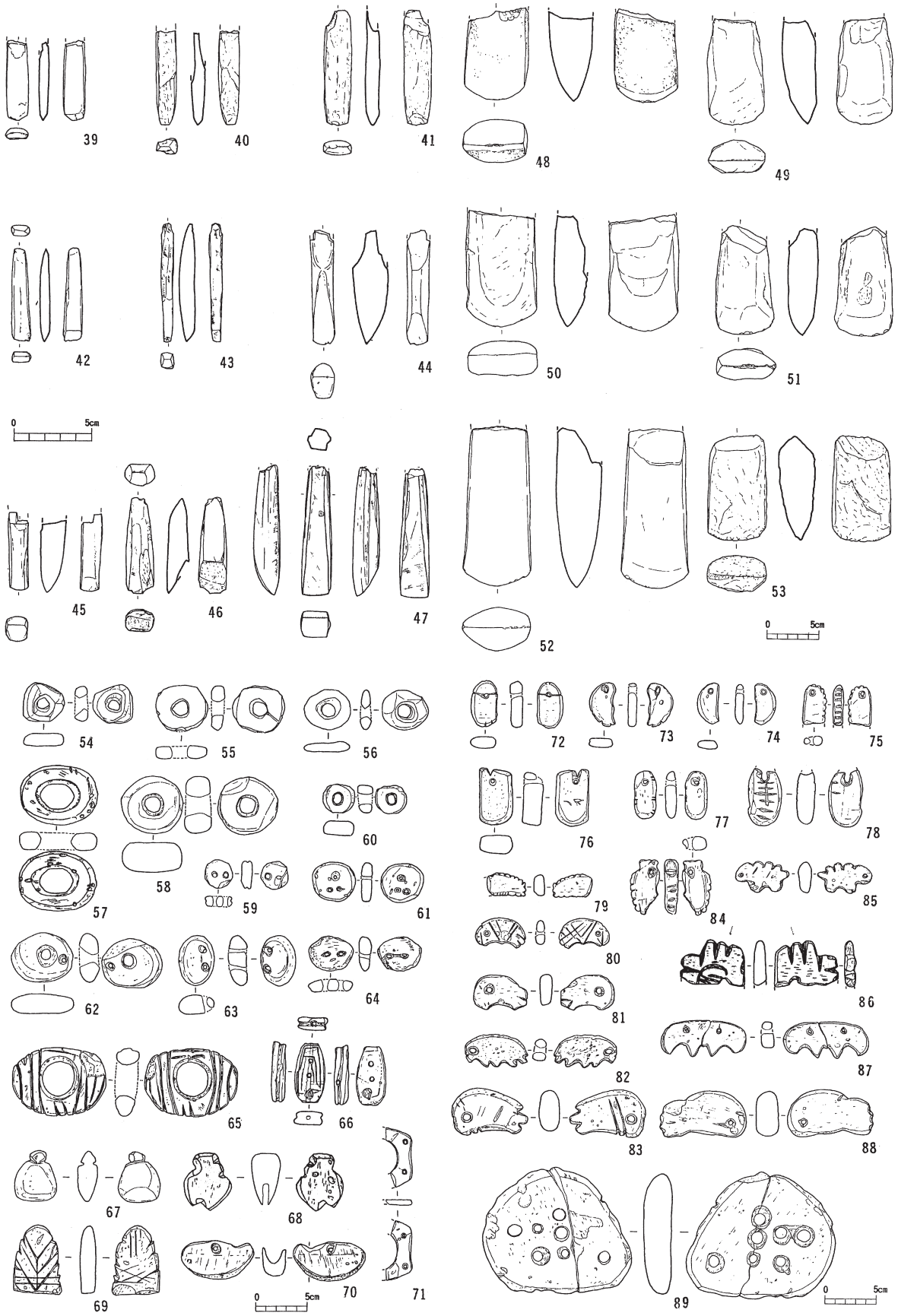
鹿児島市教育委員会1988「草野貝塚」『鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書』９

（出口　浩）

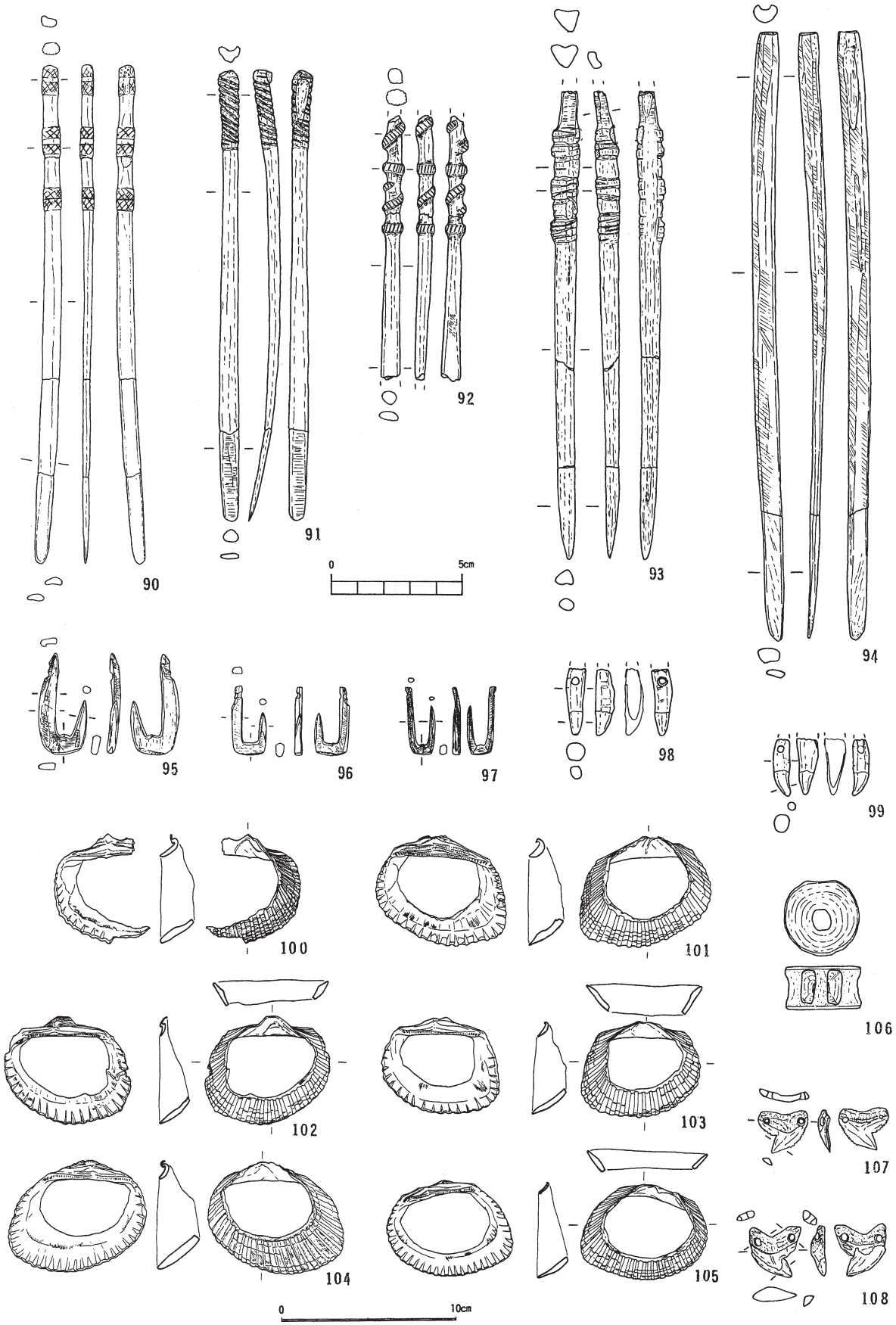
写真２　貝塚断面



第２図　出土遺物　深鉢形土器　網代底　台付皿形土器（１～38）



第３図　出土遺物　石ノミ（39～47）・石斧（48～53）・軽石加工品（54～89）



第４図　出土遺物　髪針（90～94）・釣針（95～97）・貝輪（100～105）・歯牙製垂飾品（98・99，107・108）